

Akatake Times

Vol. 38
(通算 第191号)

ウィズコロナと新しい生活様式が求められる中、皆さんの生活はどのように変化しましたか？
目に見えないウイルスとの共存生活で息が詰まりそうな時もあるかもしれません。
そんな時、社内報が少しでも皆さんにとって“ホッと一息”の場になれば嬉しいです。
本号も宜しく願います！



『熱海城』



近場の観光スポットですが、熱海城の写真です。トリックアートや展望天守閣が楽しめます。
地下一階のゲームコーナーはわりと本格的なゲームセンターですが、なんと全て無料で遊べちゃいます。
(入場料は別途必要ですが・・・)
小・中学生くらいのお子さんがいらっしゃる方は、是非遊びに行ってみて下さい。
喜ぶと思いますよ。

撮影日時：2019年 9月23日 写真と文：生産管理部 購買課 根岸さん

◆酷暑と厄災のなかで

年々暑さを増す夏。今年も酷暑が続き暑さ対策が一苦勞でした。
また、国内はもとより世界に新型コロナウイルスの感染が拡大し経済は最悪の事態に。
そのような中での第49期が一定の成果を収められたことをうれしく思います。大変お疲れさまでした。
つぶれない会社づくりの道程はまだ半ばですが、年々力がついてきていることは間違いありません。

◆どこまで上がるのか

稲穂もだいぶ目立つようになり多少なりとも秋の気配が漂ってきました。酷暑もあと少しの辛抱です。
ちなみに私が生まれた1949年7月の最高気温を調べてみますと33.4℃。12歳のころ山の茶畑に
実母と作業に行き、昼弁当を日陰で食べたときのさわやかな冷風は今でも覚えています。
その時の8月の最高気温33.9℃、8月の最高平均気温26.8℃。
では、2050年の日本の気温はというと、地球温暖化がこのまま進むと東京は40℃を超えて
スーパー台風が日本を襲う、と世界気象機関が警鐘を鳴らしています。
高温化するにつれ人間は標高が高いところ、より高いところに住むようになるのでしょうか。

◆半世紀になります

我が社はこの9月からいよいよ50年目という大きな節目を迎えました。9月4日に年度方針発表会、
翌5日に設立50周年記念セレモニーをささやかに開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの
感染拡大によってあえなく延期の事態となりました。来春頃にはと思いましたが、終息の気配は一向に
見えず、さらに先へとなりましよう。となると、数え年ではなく満年齢で開催ということになります。
50周年は会社設立50年目ではなく、50年を経過した2021年9月1日からとなるということですから
ちょうどいいかなと思っています。社員に感謝し、顧客、協力会社をはじめ我が社と関わりを持つ
関係各位に感謝する思い出に残る企画にできればと考えています。言うまでもなく、社員全員で
さらなる発展を確認する場であることは言うまでもありません。全員の手作りで、あたたかい
お祝いの会にしたいと考えています。皆さんの知恵を期待しています。

◆昔の話を少し

私が当社に入社したのは、1976年9月1日で、ちょうど第6期が始まった日です。
粉体機器（定量フィーダ）がクレームを伴いながらも少しずつ売れ始めた頃でしたが、記録によると
売上金額4億400万円、経常利益で500万円ほどの赤字となっています。会社を設立した当時、
FRPや塩ビの塔槽類を製作・工事を行う耐食機器部門と粉体機器を設計・製作するという二つの部門
を手掛けていました。まだ粉体機器は日の目を見ず耐食機器事業におんぶに抱っここの状況です。
第6期に入り、耐食部門をP製番、粉体機器部門をM製番とし二事業部制を明確に打ち出しました。
ずーっと後に私は知ることになりますが、当時、赤武エンジニアリングの粉体機器は利益が出なく
将来性も危ういと考え、撤退の是非を幹部が議論したと聞いています。ちょうど私が東京営業所に
配属になったころの話のようです。そのことを少しも知りませんでした。「粉体技術は将来必ず必要に
なる。技術を売る会社を何としても育てるべきだ」という初代の前社長の固い決意が今日を築いた礎で
あったかと思えます。親戚関係にあった私を養子縁組みで息子とし、隆々とした親会社の赤武（株）
ではなく赤武エンジニアリングに入社させた意味がよく分かります。また、その先代の思いを支えた
社員にも恵まれたことが大きいでしょう。・・・この話になると長くなるので別の機会に。

◆聞いてほしい、聞かせてほしい

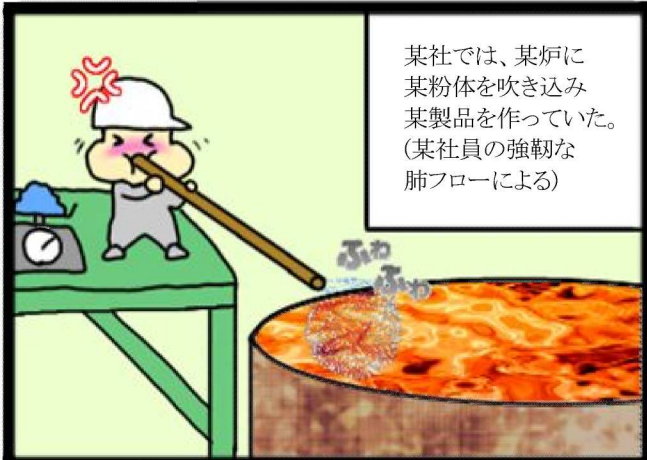
入社当時の思い出を一つ。入社間もないころですが（一応イートップの原理や組み立てを教えてもらい
ましたが全然自信がない）確か某発電所だったと思います。そこに納入したイートップの計量部を
取り換えてくるようにと指示を受け、重たい計量部をバッグに入れていざ出発。現場に出向いたところ、
5～6㎡の溶解槽の上に鎮座しているイートップを見て愕然としました！溶解槽の蓋が無いのです！
イートップの据え付け用Cチャンの上に乗って作業。一步間違えると溶解槽へドボン。この時期の
イートップは現在のように整備しやすいわけではなく大変でした。計量部をようやく外したところ、
高分子凝集剤が顔にバサッとかかり、しかも夏でしたから汗をかいています。ベタベタと大変。
てなわけで何とか作業を完了。帰りの道すがら、うまく動くか心配でたまりませんでした。お客さんから
何も言っていないので大丈夫のようでした。今では考えられないような作業でした。かような思い出が
長年勤めた方には沢山あるでしょう。50周年を機に紹介してもらおうとありがたいです。

第50期も粉体ハンドリング設計・製作を生業とし、売り上げ拡大ではなく、あくまでも体質の強化を
図っていく方針です。納得のいく成果を上げて、50周年を共に祝いたいと切望します。
ご安全に！！

代表取締役社長 赤堀 肇紀

一気にかきまわす レッドサムライ

～ ふたつの“ハイ”、ここに決着！ の巻～

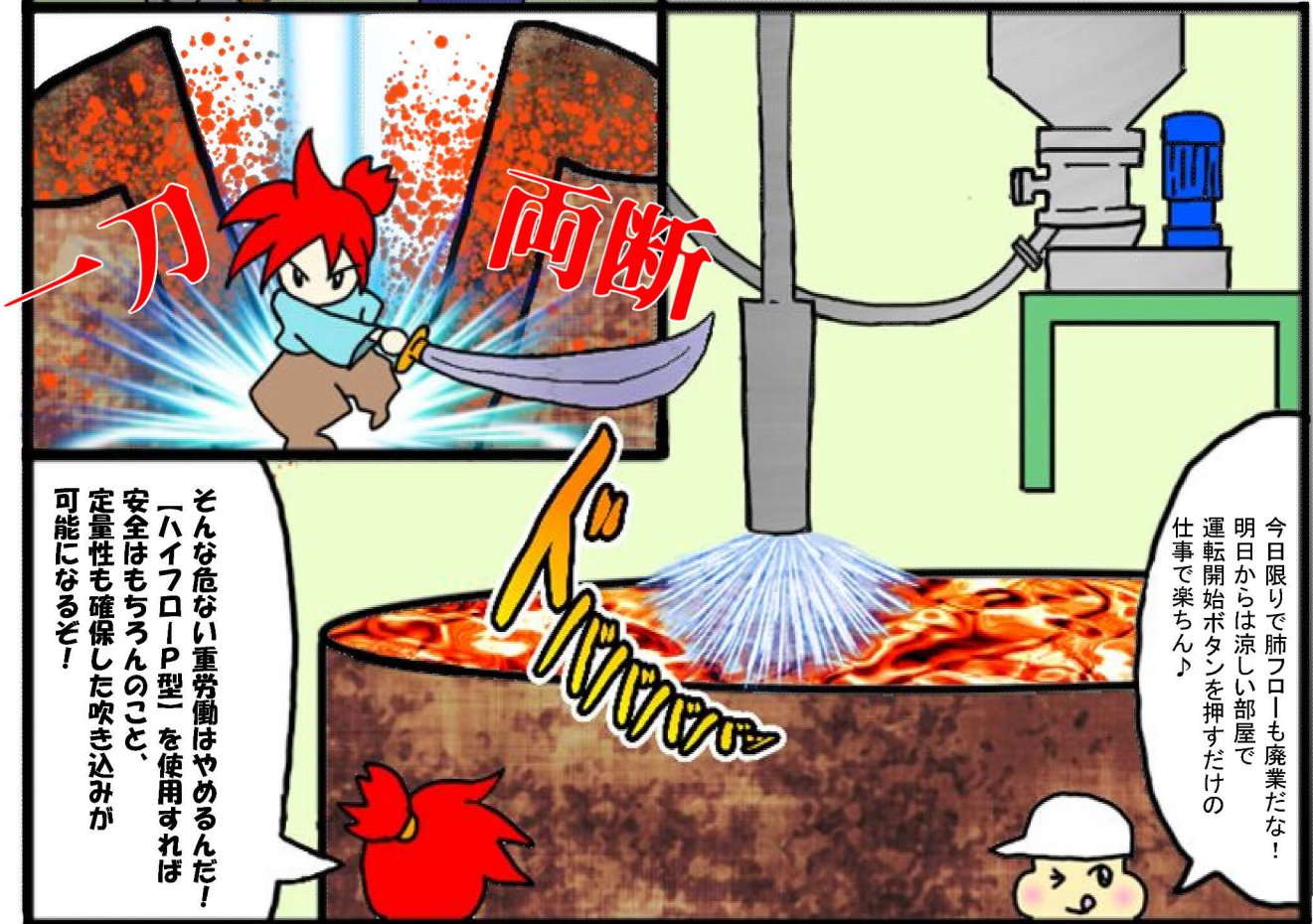


某社では、某炉に
某粉体を吹き込み
某製品を作っていた。
(某社員の強靱な
肺フローによる)



そんな
危険な作業は
認められ
マセーン！

フウー！！
(ええー！)



そんな危ない重労働はやめるんだ！
「ハイフローP型」を使用すれば
安全はもちろんのこと、
定量性も確保した吹き込みが
可能になるぞ！

今日限りで肺フローも廃業だな！
明日からは涼しい部屋で
運転開始ボタンを押すだけの
仕事で楽ちゃん♪

Reception Flower

受付に
華やかさを
添える生け花。

今回は、
2020年6～7月に
生けた花の中から、
選りすぐりの1点を
選んでいただき
ました。



✿ カーネーション

✿ ドラセナ